

授業評価アンケートから考える教育改善

—第1部全体報告の概要—

高等教育企画室

1. 背景と目的

この度の全学FD研究会（第1部）では、2021年度前期授業評価アンケートの全体的な傾向や特徴を報告し、その結果をもとに教育改革・授業改善のヒントを検討することとする。

授業評価アンケートの目的は、全学にとっては本学の授業に関する学生の取り組みや目標達成等を把握し、教育改善の基礎資料とすること、また教員にとっては授業評価アンケートの活用により授業を改善することである。

これまで高等教育企画室としては、授業評価アンケートの集計および共有を通して、この教員の授業改善を後押ししてきた。これを踏まえて今回のFDでは、高等教育企画室において授業評価アンケートやシラバスの分析を行い、授業評価アンケートの知見を組織的な教育改善につなげていくこととする。

この度の取り組みをひとつのきっかけとして、本学教職員の教育者としての反省的実践のさらなる充実を図るとともに、教育改善の機運を醸成していくことが、本FDのもっとも重要な目的である。

2. 調査の概要

調査時期は、令和3年7月21日(水)～8月7日(土)であった。

対象科目は、原則的に全学授業科目を対象である。ただし、分析結果により対象科目が特定されないように、履修登録者数10名以下の科目と留学生科目を分析対象から除外した。

回答率は、基盤教育が70.3%（回答件数9,501／履修登録件数13,509）、専門教育が52.7%（回答件数12,280／履修登録件数23,289）である。設問項目の構成は、①回答者の学年・学類、②授業への取り組み、③授業に関する評価である。

3. 授業の満足度

本学の授業に関する学生の満足度は概して高い。「総合的に見てこの授業に満足しましたか」に対する肯定的な回答は、学士課程全体で87.7%に及んだ。また、基盤教育（90.9%）は専門教育（85.2%）に比べて、肯

定的な回答が高くなっている。専門教育の科目の中でも人間発達文化学類の肯定回答の割合は、89.3%と他の学類に比べて、高くなっている。

当日はこうした学士課程全体・領域別・学類別に集計した結果についても報告する。

4. 授業目標の達成度とその改善のヒント

授業目標の達成度は、概して高い。「シラバスに掲げられた望ましい水準を達成できましたか」に対する肯定的な回答は、学士課程全体で81.5%に及んだ。また、基盤教育（86.0%）は専門教育（78.0%）に比べて、肯定的な回答が高くなっている。専門教育の科目の中でも人間発達文化学類の肯定回答の割合は、84.1%と他の学類に比べて、高くなっている。

授業目標の達成度は、学生の学習習慣と関係がある。特に「(受講前に)興味ない」(表1)、「(授業外の学修時間)何もしない」、「(出席回数)少ない」といった事項は授業目標の達成度に深く関わっている。授業目標の達成度を高めるためには、授業期間中に学生の学習習慣の確立を支援すること(宿題等の活用)、そして授業を通して学生の知的好奇心を刺激することが重要である。

表1「授業への興味」と「授業目標の達成」クロス表

	達成 できなかった	あまり達成 できなかった	どちらとも 言えない	ある程度 達成できた	達成できた	合計
興味があった	0.4%	1.3%	7.1%	33.5%	57.8%	100.0%
ある程度興味があった	0.4%	2.5%	14.8%	59.9%	22.4%	100.0%
どちらとも言えない	1.2%	5.3%	33.8%	42.8%	16.9%	100.0%
あまり興味がなかった	2.0%	14.0%	32.0%	36.5%	15.4%	100.0%
興味がなかった	16.4%	11.3%	26.0%	24.0%	22.3%	100.0%

5. シラバスの授業改善・工夫の分析

本学のシラバスでは教員が授業評価アンケートの結果を受け、自らの授業を改善・工夫した結果が「シラバスの授業改善・工夫」に記載されている。ここには授業評価アンケートの活用や授業の改善のためのノウハウが秘められている。そこで今回は、「シラバスの授業改善・工夫」についてテキストマイニングによる分析を行ってそこに共通する内容や傾向を明らかにし、その結果を報告する。